

北海道議会議員

木葉淳 道政報告



き ば じ ゆ ん ど う せ い ほ う こ く

北海道議会議員木葉淳道政事務所 江別市野幌町 79-7 ホワイトピア野幌 2階

鈴木道政初の新年度予算案 コロナウイルス対策等を審議

二〇二〇年第一回定例会は、一月、道内でも新型コロナウイルスへの罹患者が増加したことにより、議会日程の変更や、議場内の換気などを行いながら、三月二十五日までの期間で、新年度予算編成と、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に伴う諸課題への対策（以下コロナ対策）等の議論を行いました。

二月二八日、鈴木知事は、北海道が新型コロナウイルス感染者数全国一となつたことを受け、道民に対し、三月一九日までを期間とする緊急事態を宣言し、「週末の外出自粛」や



「小中学校の一斉休校」を要請しました。この宣言に伴い、道民が不要不急の外出を控えた生活を行つたことによる外食産業や、国の入国制限等に伴う外国人観光客の激減による宿泊業をはじめ、多くの産業に影響を及ぼし、道内経済はかつてないほど落ち込みを見せました。

当初は、知事の道政執行方針にもある十年後を見据えた道政のロードマップに描かれた、東京オリンピック・パラリンピックや民族共生象徴空間ウポポイ（白老町）など、外国人観光客五〇〇万人達成に向けた、活力のある本道経済の創出を議論する予定でしたが、内容はコロナ対策へとシフトチェンジすることになりました。

今回の議会で私は、予算分科委員会において、経済部に対し、①コロナ対策の早期実施、②今後のIR誘致断念、③幌延深地層研究の研究延長反対、④就職氷河期世代活躍推進策などについて質問をし、最終日には補正予算追加質疑を行いました。

第一回定例会質疑（木葉）
KIBA

○質問 検査体制について（木葉）
道民の不安に寄り添うため、検査体制の拡充について伺います。

○小規模事業者緊急支援について（木葉）

今回補正予算に計上された小規模事業者の事業継続に向けた支援策について伺います。

◇答弁（鈴木知事）

道では、「胆振東部地震」の際にも、局地激甚災害に指定された被災三町の小規模事業者に対し、補助率の引き上げ措置を行ったところであり、所要の効果が得られたことから、このたびの対策においても同様の負担軽減を図ることとしたところであります。

道といたしましてはこの事業を通じて、例えば、感染予防対策をとりつつ営業する事業者が行う広告宣伝や店頭販売の縮小を補うネット販売の実施といった取組を支援することにより、感染リスクを低減しつつ、経営活動を行う取組の促進を図つてまいる考え方であります。

○中小規模事業者緊急支援について（木葉）

中小企業者等に対する事業活動の維持・継続に向け、専門家を派遣し、むづいつた支援を行うのか伺います。

◇答弁（鈴木知事）

道では、国の緊急対応策や道の新たな施策が地域にしつかりと行き渡るとともに、感染拡大防止策と社会経済活動の両立を図る観点から、国の専門家チームや保健所の適時・適切なアドバイスのもとで、産業支援機関や商工団体、金融機関等と連携をしながら、中小



私の所属する民主・道民連合の会派では、2/18と3/10の2度道に、新型コロナウイルス対策について要請を行いました。（左手前が 木葉）

イタリアの医療崩壊から見る

公立病院の役割

企業診断士や店舗コンサルティングなどといった専門家の派遣により、衛生管理に配慮した店舗設計についての指導・助言や、雇用調整成金の活用支援等きめ細やかな相談・助言を行う体制づくりを進めるなど、中小・小規模企業の事業活動の継続と雇用維持を図つていけるよう全力で取り組んでまいります。

ます。

高齢化率（世界一位）ちなみに一位は日本（）の高さが原因といわれる一方で、過去五年間で七六〇もの医療機関が閉鎖されたことや、今回の医療崩壊の一因とされています。

昨年、厚労省は、統廃合をすすめたほうが良い全国四一四の公立・公的病院名を公表しました。

その中に、江別市立病院の名前はありませんでしたが、江別市立病院は多額の負債を抱え、議会でも再三、経営再建が議論されてきました。今年から三年間を集中改革期間としてとりくんでいきます。

健全な病院経営を第一に考えることは当然ですが、広域分散型の本道における、地域の公立病院の果たす役割も併せて議論していくことが重要です。

今回のイタリアの医療崩壊を教訓に、私たちが必要とする、地域医療について一人一人が意識を高めていく必要があるのでないでしょうか。

◇答弁（鈴木知事）



○質問 医療提供体制について（木葉）

補正予算により道内の入院病床はどの程度確保されるのか伺います。

また、オーバーシュートに備えどのような対策を講じていくのか伺います。

◇答弁（鈴木知事）

道では、新型コロナウイルス感染症患者の受入先として、九四床の感染症病床を確保しているところであります。感染症病床以外にも、結核病床や一般病床などの利用拡大を図ることによりまして、一五〇床程度の病床を確保してきたところでございます。

今回の補正予算案については、入院患者を受け入れる医療機関の病床等の整備や、病床維持のための支援を行うこととしておりまして、こうしたことも活用しながら、今後も病床の機能強化を図ることとしております。

また、保健所設置市において、疑似症患者が出た場合には、それぞれの検査機関で、PCR検査を実施しているところですが、検査結果や患者情報等について、相互に情報共有を図るなど、連携して対応しているところです。

また、先般、国から患者数の大幅増に備えた取組を進めるよう求められたことから、道といたしましては、医師会などと連携・協力を図りながら、感染された方が適切な医療を受けられるよう、一層の医療提供体制の充実に努めてまいります。

○質問 中小企業の資金繰りについて（木葉）

新年度から「新型コロナウイルス感染症緊急貸付」を創設するとのことです。事態の収束が見通せない現状では、事業者は新たな借金を抱えることに躊躇します。

◇答弁（鈴木知事）

検査体制についてであります。道内では、道衛研をはじめ、現在六カ所の検査機関において、一日当たり一〇〇人程度の検査が可能となつておらず、一日の検査件数も概ね八〇件程度であります。行政検査が滞つていると

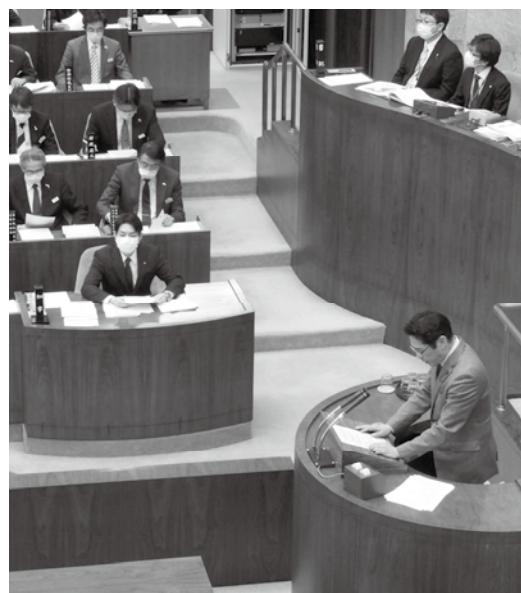
いう状況にはございません。

今回の補正予算案では、道立保健所におけるPCR検査機器の整備とともに、行政検査を実施する医療機関への経費の負担を行うな

ど、迅速に検査できる体制を構築してまいります。

道では、当面の運転資金を緊急的に必要とする企業を対象として、融資期間が一年以内の短期資金を新たに創設し、低金利で迅速な資金調達を支援することとしたしました。

また、現在実施中の経営環境変化対応貸付では、既に借り入れた債務の借換えが可能なことから今回、融資限度額の引き上げや据置期間の延長などをすることとしており、道といたしましては、こうした資金を効果的に活用することにより、中小・小規模企業の資金繰りの安定に向けて、しっかりと取り組んでまいります。



また、償還期間が一年以内の短期資金では、償還計画が立てにくく利用がすすまない懸念があります。「緊急貸付」は、どういった資金ニーズを想定し、創設した制度なのか伺います。

◇答弁（鈴木知事）



北海道議会議員 木葉淳活動記録（12月～3月）



12月 日本原子力機構へ
幌延深地層研究計画延長反対を要請



1月 経済関係団体新年賀詞交歓会
(江別市民会館)



12月 道内選出国会議員へ道政課題解決に向けた要請（参議院議員会館にて その後共に各省庁へ）

～ 木葉 淳（きば じゅん） プロフィール ～

【住まい】 江別市大麻新町（在21年）

【経歴】 ○函館市生まれ ○函館市立北高校卒業 ○北海道教育大学

【事務所】 ☎069-0813

札幌校卒業 ○江別市立江別第二小学校・江別市立対雁小

学校など 石狩管内の小学校で25年勤務

TEL011-382-1437 Fax011-382-1401

○2019年4月北海道議会議員初当選

道政アンケート（送付は木葉淳道政事務所 又は Fax011-382-1401 へ）

今後の道政運営へのご意見をお聞かせください。



お名前 _____ ご住所 _____ お電話番号 _____